

# 会議の目的及び進め方 ①会議の目的

資料 1

## 設置目的

- ① 持続可能な地域経済の確立に向けた新規施策等の検討
- ② ひょうご経済・雇用戦略推進会議（以下、「推進会議」という。）の分科会として、社会経済情勢や現場の課題に即した施策に結びつく、踏み込んだ議論を行う

## 経済分科会 構成員名簿

(敬称略・五十音順)

氏名	団体・役職等
上村 敏之	関西学院大学経済学部教授
小田垣 栄司	株式会社ノヴィータ代表取締役会長
國井 総一郎	株式会社ノーリツ会長（神戸商工会議所副会頭）
後藤 こず恵	流通科学大学商学部准教授
西山 桃子	株式会社西山酒造場女将
畑 豊	兵庫県立大学副学長兼産学連携・研究推進機構長
藤岡 ゆか	藤岡金属株式会社代表取締役（関西学院大学国際学部・国際教育協力センター講師）
村山 滋	川崎重工業株式会社特別顧問
山下 紗矢佳	武庫川女子大学経営学部専任講師

構成員（9人）

## 会議の位置づけ

### ひょうご経済・雇用戦略推進会議

- 戦略の効果的な推進、評価・検証、新たな施策の検討、戦略の充実等が目的
- 会議での議論の内容は、今後の政策形成の参考（機関意思のとりまとめなし）
- 推進会議の設置期間：1年

### 経済分科会

- 推進会議で挙げた経済・産業分野の課題について詳しく掘り下げ
- 全2回の議論を踏まえ、推進会議に結果を還元
- 構成員は推進会議構成員を中心に選定

### 雇用分科会（人手不足問題対策会議）

- 現場ヒアリング、推進会議で挙げた雇用分野の課題について詳しく掘り下げ
- 全3回の議論を踏まえ、推進会議に結果を還元
- 構成員は推進会議構成員に加え、特徴的な取組を行っている企業経営者等を新たに選定

### ひょうご経済・雇用戦略

- **計画期間** 2023（R5）～ 2027（R9）年度
- **戦略の趣旨**  
産業・雇用分野での県政運営の基本的考え方及び施策の方向を示し、産学官民が協働して推進を図っていくための共有シナリオ
- **戦略の推進体制**  
学識者、産業・雇用団体代表者、企業人等からの課題提起と施策検討の場として、ひょうご経済・雇用戦略推進会議を開催

## ② 会議の進め方

### 議論の目的

- 「第1回推進会議意見」について、県での事業化を念頭に、課題や取組の方向性を深掘りする
- 「ひょうご経済・雇用戦略に基づき県が重点的に取り組んでいる事業」について、事業の拡充や新たな展開の方向性を議論する

### 主な議論のテーマ

主な議論テーマを以下のとおりとする

- ① 成長産業の育成、起業支援（注力すべき分野、スタートアップ支援の方向性など）
- ② DX等による生産性の向上（企業のDX振興・支援の方向性など）
- ③ 地場産業の競争力強化（地場産業振興・支援の方向性など）

### スケジュール（予定）

	8月	9月
会議	第1回会議	第2回会議
内容 テーマ	課題整理と方向性	議論総括

推進会議で共有  
体系的な整理

- 産業政策として検討
- 予算・事業化へ

# 議論総括 【今後の経済施策強化の方向性】 (案)

## 方向性

- ひょうご経済・雇用戦略のうち、「**成長産業の育成、起業支援**」「**DX等による生産性の向上**」「**地場産業の競争力強化**」を軸に施策を強化
- **モデル事例の創出・展開、連携、出口戦略、学生支援**の視点を重視し、競争力を強化して持続可能な地域経済を確立する



# 議論総括 【今後の経済施策強化の方向性】 (案)

強化軸	強化の方向性（主なもの）
<p>成長産業の育成、 起業支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新しい産業クラスター形成（IT産業、アニメ産業 等）</li> <li>● 企業の更なる成長促進（企業規模拡大へのインセンティブ付け）</li> <li>● <b>連携・承継ニーズ</b>をふまえたスタートアップの支援（県内大企業のニーズがある分野を重点的に支援）</li> <li>● スタートアップの<b>出口戦略</b>（支援中のスタートアップのモニタリング、県内大企業CVCニーズとのマッチング 等）</li> <li>● スタートアップの中長期的支援の仕組みづくり（財団の配当による中長期的な事業費支援 等）</li> <li>● <b>学生</b>の起業支援拡充（大学内起業イベントの実施促進 等）</li> </ul>
<p>DX等による生産性 の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DX推進支援事業者等との<b>連携促進</b>（コンペティション形式でのマッチング、大学委託研究など大学と<b>連携</b>した支援）</li> <li>● 自治体のDX推進による<b>県内企業への波及</b>（自治体DX方針の作成、補助金条件へのDXを要件化 等）</li> <li>● DX推進支援（<b>成功モデルケースの展開</b>など企業経営者へのアプローチ 等）</li> <li>● DX人材の育成（子どもや<b>若者</b>への関連教育の展開、競争を通じた能力向上）</li> </ul>
<p>地場産業の競争力 強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フィールドパビリオンやSDGsなど魅力的な取組を切り口にした<b>企業PR</b></li> <li>● 市場ニーズに対応するための<b>多様な人材の確保、多様な働き方の促進</b>（研修開催、都市部での就職説明会開催）</li> <li>● 伝統技術等の磨き上げによる<b>新商品・サービス・事業展開支援</b> （<b>学生との連携</b>や外部人材の登用促進、高付加価値化・広報力強化・オンライン販売展開等支援）</li> </ul>

重点  
プロジェクト

第1回推進会議・第1回経済分科会意見

(赤字：経済分科会意見)

①成長産業の育成

● **新しい産業クラスター形成**

- ・ 「とがった」産業への特化

【例1 IT産業】

広島県等はIT産業に特化した企業が県外から進出することに対して色々な補助をしており、見学に来ただけで補助金を出すなど、思い切った施策を取り入れている

【例2 アニメ産業】

就職を希望する若者が多い産業の誘致・育成

- ・ ITやアニメ産業は賃金が低いため、労働者の賃金対策が必要ではないか

● **企業の成長促進**

- ・ 一定規模に到達した企業のさらなる成長支援が必要ではないか

重点  
プロジェクト

第1回推進会議・第1回経済分科会意見

(赤字：経済分科会意見)

②スタートアップ  
エコシステム

- **スタートアップによるDX発展支援**
  - 対応力のある若い人材や、スタートアップエコシステムと絡めた強化が、社会変革を促すキーになるのではないかと
- **学生の起業支援拡充**
  - やる気のある学生に対して、人数を絞って手厚い起業支援をしてはどうか
  - 学生が起業にチャレンジする機会の創出（大学内起業イベントの実施促進など）
  - 新規性がありながら市場に受け入れられる事業提案など、起業に必要な知識の研修
- **スタートアップの出口戦略検討**
  - 現状支援しているスタートアップのモニタリングを行い、出口戦略を支援してはどうか
  - ニッチな事業者をリスト化し、県内大企業CVC等のニーズとのマッチングの可能性を探る
- **承継・連携ニーズをふまえた起業支援**
  - 起業支援の注力すべき分野を、県内大企業の承継・連携ニーズがある分野とし、柔軟な支援を実施（人件費補助、公的書類作成支援、DX化支援、人脈づくり、実証機会提供など）
  - 大企業との連携方法として、元の企業の名前が残り、資金や人材投入もしやすい、ホールディングス方式が有効ではないかと
- **中長期的支援の仕組みづくり**
  - 財団を設立し、その配当により中長期的な事業費を賄ってはどうか

③科学技術基盤を  
活用した  
技術革新支援

- **Spring 8 – IIを契機にした周辺地域の活性化**
  - 機運をとらえた周辺地域の活性化施策があればいいのではないかと

重点  
プロジェクト

第1回推進会議・第1回経済分科会意見

(赤字：経済分科会意見)

④DX等による  
生産性の向上

● **DX推進支援事業者等とのマッチング促進**

- 企業単体ではDX推進が難しいので、公的な仕組み・支援が必要
  - ひょうごTECHイノベーションプロジェクトをブレイクダウンして小さなテーマに落とし込み、コンペティションのような形で実施してはどうか
- 【例】Kaggle

企業や自治体、政府がコンペ形式で課題を提示し、賞金と引き換えに、モデルやソフトウェアを買い取る仕組み  
企業や地域が世界から支援されながら、DXを進めていくことが可能

- 大学と連携したDX支援（大学への委託研究、表彰制度創設など）

● **自治体のDX推進による県内企業への波及**

- 自治体での先進事例共有、自治体DX方針の作成
- 県補助金の条件にDXを要件化してはどうか

● **DX推進支援**

- 企業経営者の意識改革、業界展望や理念の啓蒙、モデルケースなど他社の成功事例の展開
- DX特性の高い社員を対象としたワークショップ、DXマインド育成とDXスキル醸成、組織への浸透方法検討
- 企業経営者直轄でDX推進事務局を作る

● **DX人材の育成**

- 子どもの頃から関連する教育を取り入れ、「○○甲子園」のように競争を通じて能力向上を目指してはどうか

重点  
プロジェクト

第1回推進会議・第1回経済分科会意見

(赤字：経済分科会意見)

⑤経営の  
持続性向上

- **大学研究への企業参画による新事業展開**
  - ・ 産官学連携のもと、大学と企業が共同で継続的に研究しながら、企業が新規事業を見いだす方法が有効ではないか
- **企業規模拡大へのインセンティブ付け**
  - ・ 年商5億、10億の企業を50億、100億企業に成長させるため、ランクアップする企業へのインセンティブを与えてはどうか
- **弱った企業への伴走支援や事業承継**
  - ・ ゼロゼロ融資の返済が始まる中、足元の経営基盤が揺らいでいる企業への支援が重要。
  - ・ 伴走型支援や統廃合に向けたマッチングで助けることが大切
- **県内M&Aの促進、マッチング**
  - ・ 他府県の企業が兵庫県の企業に対しM & Aをする案件が増えており、県外への工場移転、雇用の流出や転廃業のリスクがあることから、兵庫県の企業の中でマッチング先を探すことが重要
  - ・ 県内企業同士なら補助額アップなどのインセンティブを設けてはどうか
  - ・ マッチング先の信頼担保のため、公的機関によるマッチングシステムはできないか

重点  
プロジェクト

第1回推進会議・第1回経済分科会意見

(赤字：経済分科会意見)

⑥地場産業の  
競争力強化

- **インバウンドへの兵庫の食の売り出し**
  - インバウンドの旅行消費額は高い。豊かな食を切り口に、価格設定を考え、インバウンドへの対応で競争力を強化してはどうか
  - 食の中で、何を優先的にブランド化するかとの観点が必要ではないか
- **フィールドパビリオンやSDGsなど魅力的な取組を切り口にした企業PR**
  - フィールドパビリオンに認定されると、大きな後押しや問題解決の弾みになる
  - 県全体でフィールドパビリオンやSDGsを推進しつつ、企業の取組が伝わるのが大切ではないか（フィールドパビリオンやSDGsに関わる企業のPR）
  - 万博を取組の一つのゴールと見立てて、成功事例を展開してはどうか
- **市場ニーズに対応するための多様な人材の確保、多様な働き方の促進**
  - 女性リーダー登用や高齢者の雇用促進、時短やリモートワークの推進について、セミナー開催や補助金等で支援
- **都市部での合同就職説明会開催**
  - 地場産業の地元ではなく、人が集まりやすい都市部で開催することで、Iターン者等の採用を増やす
- **伝統技術等の磨き上げによる新商品・サービス・事業展開支援**
  - 地場産業の本物の価値を生かした新展開の支援、新たな視点を獲得するための外部人材の登用促進（学生との連携含む）
  - 販路開拓のためのオンライン販売展開支援
  - 広報力強化のためのコンサル依頼料等支援
  - 新たな視点の獲得支援（細分化した分野別成功事例の共有、付加価値をつけるための大都市での現地視察）
- **トップを狙う意識の醸成**
  - 一定の分野やカテゴリー内でトップを狙っていく、尖っていく意識を醸成することが重要ではないか